

第15回電気絶縁材料シンポジウム

開催にあたって

絶縁材料技術委員会

委員長 家田正之

電気絶縁材料シンポジウムは内外よりの多くの支援のもとに、昭和43年以来順調に発展し、本年は秀峰富士を仰ぐ箱根地区において、第15回の記念すべき会議を開催するに至りました。今回も本会議の特徴の一つである著名な国際的外国人招待講演者並びに多くの優れた論文発表者と参加者を迎えることが出来ました。ここに会議開催に至る諸準備・運営に対し、多くのご協力を賜りました電気学会運営委員会および当技術委員会の委員・幹事諸氏並びに当技術委員会に所属する絶縁材料耐熱性試験法（委員長 金子剛氏）、絶縁材料微小放電劣化（委員長 金指元憲氏）、絶縁材料直流・インパルスストリーミング（委員長 能登文敏氏）、固体絶縁物絶縁劣化判定試験法（委員長 福田正氏）、絶縁材料の熱刺激電流と空間電荷（委員長 日野太郎氏）、絶縁材料放射線効果（委員長 矢作吉之助）、油浸絶縁（委員長 田中祀捷氏）、絶縁材料耐トラッキング性（委員長 能登文敏氏）の各調査専門委員会・電気学会事務局の関係各位に対し、心から感謝の意を表する次第であります。

創設以来、本シンポジウムの重点目標は一貫して『わが国電気絶縁工学における学術・技術の質的向上、基礎と応用の有機的結合、学際的色彩の強い電気絶縁工学の電気・電子・物理・化学・機械・情報・制御などの広い分野の専門家による総合工学としての発展、海外招待講演者・参加者との情報交換を通じての国際性の向上、次代を荷う若手研究者・技術者の育成など』に置かれて参りました。これら成果は、過去14回の会議を通じての論文内容および参加者の質的・量的向上となって着実に具現化されているものと確信しております。

今回の会議には、外国人招待講演2件、特定テーマ5部門とポスターセッションに合計56件およびパネル討論1部門の発表・討論が予定され、その内容は国際レベルの優れた学術的・技術的成果を包含し、高い文献的価値を備えているもので、会議日程も、箱根地区での全員宿泊形式をとって、3日間にわたることになりました。本年の会議の特徴は、例年の海外招待者2名、すなわち米国ウェスチングハウス社のサンプソン博士および西独ハーン・マイトナー研究所のシュミット博士をお迎え出来たこと、そして『部分放電』に関するパネル討論を計画したことであります。後者は、国際的にも優れた学術・技術水準を保つわが国のこの分野より5名のパネラーを選定し、部分放電に関する正しい知見と将来の問題について、5名のコメンテータと会場参加者を交えて、徹底した討議をせんとするもので、その成果は放電劣化対策に大きな寄与をするものと期待されています。これら特別企画に対し、当委員会の要望を心よく快諾して下さいました招待講演者・パネラーおよび関係各位に厚く御礼申し上げます。

昭和54年の第12回より開始した提出全論文の英文アブストラクト版の諸外国の主要な関連研究機関への送付は、わが国の電気絶縁に関する学術・技術の現状の各国への紹介と、これによる相互理解の発展に有効に機能しているものとして、各国において好評をえており、本年も引続いて実施する所存であります。更に、関連調査委員会の活動報告を掲載し参加者各位に、これら関連委員会活動に対するご理解の便に供させていただきました。

わが国をとりまく厳しい国際状況に関連して、電気絶縁工学の現状とその将来には多くの解決すべき学術的・技術的諸問題が山積しております。これら課題の解決に本シンポジウムの果たす役割は益々重要になりつつあることを痛感しております。これら主旨をご理解いただき、より有意義なる会議へと成長することを念願するものであります。今回の会場は、環境に恵まれた箱根、そして全員合宿形式ですので、自由時間、イーブニングセッション、懇親会などを有効にご活用いただき、お互いの情報交換などその実をあげていただければ幸いに存じます。何卒よろしくご協力の程をお願いする次第であります。

第15回シンポジウム開催に当り、種々尽力させた絶縁材料技術委員会構成員の諸氏は下記の通りであります。

〔幹 事〕 日野太郎、田中祀捷

〔1号委員〕 相原 貢、一色節也、岡本英夫、門谷建蔵、隈 彰二、見城 享、
武 祐一郎、蓬郷章郎、内藤克彦、西松峯昭、速水敏幸、平林庄司、
藤田英夫、松葉博則、

〔2号委員〕 金子 剛、金指元憲、能登文敏、福田 正、日野太郎、矢作吉之助、
田中祀捷

〔幹 事 補〕 夏目文夫、新田義孝

また外国人招待講演者招待に関して、種々御協力を頂いた下記の関係各社に対し、厚く御礼申し上げます。

昭和電線電纜株式会社、住友電気工業株式会社
大日本電線株式会社、東京芝浦電気株式会社
株式会社 巴川製紙所、日新電機株式会社
日本碍子株式会社、株式会社 日立製作所
日立電線株式会社、株式会社 富士電機総合研究所
藤倉電線株式会社、古河電気工業株式会社
松下産業機器株式会社、三菱電機株式会社
株式会社 明電舎

(五十音順)